

主日礼拝

2022年03月27日
午前10時30分

前奏 「カンティレーネ」(J.ラインベルガー)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ
悔いる心を、神は侮られることはない。」

詩編 51：19 による (讚美歌 21-33)

受難節のリタニー

《受難節第4主日》

司式者：私^{わたし}たちは十字架^{じゅうじか}のあがないを否定^{ひてい}し、自分^{じぶん}たち
の傲慢^{ごうまん}によって生きていこうとしたことを告白^{こくはく}
します。これからはもっと、私^{わたし}たちに十字架^{じゅうじか}
による赦^{ゆる}しを受け入れる信仰^{しんこう}を与^{あた}え、また私^{わたし}たちが
人^{ひと}を赦^{ゆる}すことのできる愛^{あい}を与^{あた}えてください。

会衆：主よ、私^{わたし}たちをあわれみ導^{みちび}いてください。

司式者：イエスさまが敵^{てき}を赦^{ゆる}しながらも、十字架^{じゅうじか}の上^{うへ}で
苦^{くる}しみを受けたことを思^{おも}いつつ、このろうそく^{ろうそく}を
消^けします。(消火^{しょうか})

祈祷

献金 献金箱が受付に置いてありますので、
礼拝前にお献^{けん}げください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来^{きた}せたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与^{たま}え。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

聖書 マルコによる福音書 9：2～10

新約(新共同訳)p78

六日の後、イエスは、ただペトロ、ヤコブ、ヨハ
ネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿
が彼らの目の前で変わり、服は真っ白に輝き、こ
の世のどんなさらし職人の腕も及ばぬほど白く
なった。エリヤがモーセと共に現れて、イエスと
語り合っていた。ペトロが口をはさんでイエス
に言った。「先生、わたしたちがここにいるのは、
すばらしいことです。仮小屋を三つ建てましょ
う。一つはあなたのため、一つはモーセのため、
もう一つはエリヤのためです。」ペトロは、どう
言えばよいのか、分からなかった。弟子たちは非
常に恐れていたためである。すると、雲が現れて彼
らを覆い、雲の中から声がした。「これはわたし
の愛する子。これに聞け。」弟子たちは急いで辺
りを見回したが、もはやだれも見えず、ただイエ
スだけが彼らと一緒におられた。
一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死
者の中から復活するまでは、今見たことをだれ
にも話してはいけない」と弟子たちに命じられ
た。彼らはこの言葉を心に留めて、死者の中から
復活するとはどういうことかと論じ合った。

賛美 394 「信仰うけつぎ」

Faith of our fathers!
詞：Frederick W. Faber, 1814-1863

ST. CATHERINE
曲：Henri F. Hemy, 1818-1888

1 しんこう - うけつぎ、こころみに
2 しんじて - いのればせかいはず
3 てきをあ - いさ - れた 主イエスにし

た - え て、 いま、わ が - こ こ - ろ に
に - き し、 しんりは - わ れ - ら に
た - が い、 あいのは - た ら - き で

(くりかえし)
よろこびあふ - れる。
しんこうをあた - える。 しんこうう
主をのべつた - えよう。

けつぎ、きょうもすすみゆく。

- 1 信仰うけつぎ、試練に耐えて、 2 信じて祈れば 世界は主に歸し、
今、わが心に 喜びあふれる。 真理はわれらに 自由を与える。
信仰うけつぎ、今日も進み行こう。 信仰うけつぎ、今日も進み行こう。
- 3 敵を愛された 主イエスに従い、
愛のはたらきで 主を宣べ伝えよう。
信仰うけつぎ、今日も進み行こう。

説教 「もう一度、十字架へのイエスさまと」

賛美 300 「十字架のもとに」

Beneath the cross of Jesus
詞：Elizabeth C. Clephane, 1830—1869

ST. CHRISTOPHER
曲：Frederick C. Maker, 1844—1927

十字架のもとにわれはのがれ、
おもにをおろしてしばしいこう。
あらしふくときのいわおのかけ、
あれののなかなるわがかくれが。

- 1 十字架のもとに われは逃れ、
重荷をおろして しばし慰う。
あらしふく時の いわおのかけ、
荒れ野の中なる わが隠れ家。
- 2 十字架の上に われはあおぐ、
わがため悩める 神のみ子を。
たえにも貴き 神の愛よ、
はかりも知られぬ 人の罪よ。
- 3 十字架のかけに われは立ちて、
み顔のひかりを たえず求めん。
この世のものみな 消ゆるときも
くすしく輝く そのひかりを。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏 「十字架のもとに」(讃300) (D.ウッド)

司式 大代 恵
説教 向井 希夫牧師
奏楽 福原 之織

※お立ちになるのが困難な方は、

座ったままで礼拝をお守り下さい。

※讃美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。